



Sun SPARC Enterprise™ M8000/M9000 サーバ プロダクトノート

XCP 1091 版

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 821-1229-10
2009 年 11 月, Revision A

コメントの送付: <http://docs.sun.com> (Feedback[+] リンクをクリック)

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および / または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. または関連会社の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・



ユーザーインターフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもとの第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。

目次

はじめに ix

1. Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート XCP 1091 版 1
 - XCP 1090 および XCP 1091 の新機能 1
 - エアフローインディケータ 2
 - Active Directory および LDAP over SSL 2
 - Active Directory をサポートするための XSCF の設定 4
 - LDAP over SSL をサポートするための XSCF の設定 4
 - 新しい proxyuser システムアカウント 5
 - サポートされている最小のファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザ 6
 - Solaris パッチ要件 7
 - Solaris 10 10/09 7
 - Solaris 10 5/09 7
 - Solaris 10 10/08 7
 - Solaris 10 5/08 (SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサを使用) 7
 - Solaris 10 5/08 (SPARC64 VI プロセッサと SPARC64 VII 2.52 GHz プロセッサのいずれかまたは両方を使用) 8
 - Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサを使用) 8
 - Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.56 GHz プロセッサを使用) 8
 - Solaris 10 8/07 (SPARC64 VI プロセッサを使用) 9

Solaris 10 11/06	9
Solaris パッチの入手方法	9
Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ	10
QLogic PCIe カードのパッチ	10
XCP 1090 または XCP 1091 へのアップグレード	11
XCP 1050 より前のバージョンからのアップデート	11
特定タイプの XCP アップグレード実施後に必要となるドメイン再起動	11
機能の問題と制限事項	12
SPARC64 VII プロセッサに関する制限事項	12
一般的な機能の問題と制限事項	12
追加情報および手順	14
システムへのログイン	14
WAN ブートサーバからのブート	14
Sun Java Enterprise System	15
▼ Web Console SMF サービスの有効化	15
2. ハードウェアに関する情報	17
ハードウェアに関する問題と回避方法	17
単一の J4200 JBOD ストレージレイからの複数のシステムのブート	17
DVD ドライブと cfgadm	18
Sun Crypto Accelerator 6000 カード	18
U320 PCIe SCSI カード	18
ハードウェアドキュメントの変更予定	19
環境条件	21
XSCF の初期設定	21
静電防止用リストストラップの情報	23
外形寸法と重量	27
冷却 (空調) 条件	27

電源条件	29
CPUの種類とサーバの最大消費電力	30
電源条件	31
3. ソフトウェアに関する情報	33
XCPに関する問題と回避方法	33
Solaris OSに関する問題と回避方法	35
サポートされているリリースすべてのSolaris OSに関する問題	35
Solaris 10 10/09で修正されたSolarisの問題	38
Solaris 10 5/09で修正されたSolarisの問題	39
Solaris 10 10/08で修正されたSolarisの問題	40
Solaris 10 5/08で修正されたSolarisの問題	43
Solaris 10 8/07で修正されたSolarisの問題	47
ドキュメントの変更予定	50

はじめに

このプロダクトノートには、Sun SPARC Enterprise™ M8000/M9000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、ファームウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報が記載されています。このドキュメントは XCP 1090 リリースのプロダクトノートの更新版であり、XCP 1090 と XCP 1091 の両方のリリースを対象としています。

UNIX コマンドの使用

このドキュメントでは、システムのシャットダウン、システムのブート、デバイスの設定など、UNIX® の基本的なコマンドおよび手順については説明しません。これらの情報については、次のドキュメントを参照してください。

- システム付属のソフトウェアドキュメント
- Solaris™ オペレーティングシステムのドキュメント（次のウェブサイトを参照）：

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris#hic>

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェル (スーパーユーザー)	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
Bourne シェルおよび Korn シェル (スーパーユーザー)	#
XSCF シェル	XSCF>

関連ドキュメント

本体装置の設置、管理、および使用の手順は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのドキュメントセットに記載されています。各本体装置のドキュメントセットは、次のウェブサイトから入手できます。

- Sun SPARC Enterprise M8000 サーバ：
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m8k#hic>
- Sun SPARC Enterprise M9000 サーバ：
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m9k#hic>

注 - このプロダクトノートに示す情報は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのドキュメントセットに記載されている情報よりも優先されます。

ドキュメント、サポート、およびトレーニング

Sun の役割	URL
ドキュメント	http://www.sun.com/documentation/
サポート	http://www.sun.com/support/
トレーニング	http://www.sun.com/training/

サードパーティーのウェブサイト

Sun は、このドキュメントに記載されたサードパーティーのウェブサイトが利用可能かどうかについては責任を負いません。これらのサイトおよびリソースから入手できるすべての情報、広告、製品、およびその他の資料について、Sun は保証を行わず、責任および義務を負いません。これらのサイトおよびリソースから入手できるすべての情報、物品、またはサービスに関して、それらを使用または信頼した結果発生した、実際のまたは主張された損害および損失について、Sun は責任および義務を負いません。

ご意見をお寄せください

Sun では、ドキュメントの品質向上のために、お客様からのコメントやご意見をお待ちしています。このドキュメントについてご意見がありましたら、<http://docs.sun.com> の Feedback[+] リンクをクリックしてください。ご意見とともに、ドキュメントのタイトルと Part No. をお知らせください。

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート (XCP 1091 版)』
(Part No.: 821-1229-10)

第 1 章

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクト ノート XCP 1091 版

このドキュメントでは、XCP 1090 および XCP 1091 ファームウェアリリースでの変更の内容を示します。ここでは、次の内容について説明します。

- 「XCP 1090 および XCP 1091 の新機能」 (P.1)
- 「サポートされている最小のファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザ」 (P.6)
- 「Solaris パッチ要件」 (P.7)
- 「XCP 1090 または XCP 1091 へのアップグレード」 (P.11)
- 「機能の問題と制限事項」 (P.12)
- 「追加情報および手順」 (P.14)

XCP 1090 および XCP 1091 の新機能

- XCP 1090 ファームウェアは、エアーフローインディケータをサポートする最初の XCP リリースです。
詳細については、「[エアーフローインディケータ](#)」 (P.2) を参照してください。
- XCP 1090 ファームウェアは、新しい XSCF コマンド `showdateoffset(8)` をサポートする最初の XCP リリースです。詳細については、マニュアルページを参照してください。
- XCP 1090 ファームウェアは、SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサをサポートする最初の XCP リリースです。これより前の XCP ファームウェアリリースは、高速化されたバージョンであるこのプロセッサをサポートしていません。このプロセッ

サは、速度以外のあらゆる面において、機能上すべての SPARC64 VII プロセッサと同一です。「サポートされている最小のファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザ」(P.6) を参照してください。

- XCP 1091 ファームウェアでは、Active Directory 機能および LDAP over SSL 機能が実装されます。「Active Directory および LDAP over SSL」(P.2) を参照してください。

エアフローインディケータ

XCP 1090 で追加されたエアフローインディケータでは、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの動作中に放出される排気の量を確認します。

エアフローインディケータの値は、本体装置から排出される空気の量を示しています。この値には、周辺装置は含まれていません。排気量を表示するには、`showenvironment air` コマンドを使用します。

```
XSCF> showenvironment air
Air Flow:5810CMH
```

注 - エアフロー監視の測定値は、参照のみを目的としています。

`showenvironment(8)` コマンドの詳細については、マニュアルページを参照してください。

排気データは、SNMP エージェントの機能を使用して取得することもできます。SNMP エージェントの機能を使用して排気データを取得するには、XSCF 拡張 MIB 定義ファイルを SNMP マネージャーにインストールします。XSCF 拡張 MIB 定義ファイルの詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

Active Directory および LDAP over SSL

XCP 1091 リリースでは、Active Directory 機能および LDAP over SSL 機能のサポートが実装されます。

- Active Directory は、Microsoft™ Corporation が提供する分散型のディレクトリサービスです。LDAP ディレクトリサービスと同様に、ユーザーの認証に使用されます。
- LDAP over SSL では、Secure Sockets Layer (SSL) 技術によって LDAP ユーザーのセキュリティが強化されます。ユーザーの認証には LDAP ディレクトリサービスを使用します。

Active Directory と LDAP over SSL のいずれも、ユーザーの資格情報を認証する機能とともに、ネットワーク接続されたリソースに対するユーザーのアクセスレベルを認可する機能を提供します。システムリソースにユーザーがアクセスする前に、認証を使用してユーザーの ID を確認し、ユーザーに特定のアクセス権限を付与することによって、ネットワーク接続されたリソースに対するユーザーのアクセス権を制御します。

ユーザーの権限は、XSCF 上で設定されるか、ネットワークドメイン内の各ユーザーのグループメンバーシップに基づいてサーバから取得されます。ユーザーは、複数のグループに所属できます。Active Directory または LDAP over SSL では、ユーザードメインの設定順序に従ってユーザーを認証します（ユーザードメインとは、ユーザーの認証に使用される認証ドメインです）。

認証が完了した後は、ユーザーの権限を次の方法で決定できます。

- 最も単純な場合は、XSCF での Active Directory または LDAP over SSL の設定を通じて、ユーザーの権限を直接決定できます。Active Directory および LDAP over SSL には、いずれも `defaultrole` パラメータが存在します。このパラメータが設定されている場合、Active Directory または LDAP over SSL を通じて認証されるすべてのユーザーに対して、このパラメータで設定されている権限が割り当てられます。Active Directory または LDAP over SSL サーバでユーザーを設定するときに必要となるのは、パスワードのみであり、グループメンバーシップは関係しません。
- `defaultrole` パラメータが設定されていない場合、ユーザーの権限は、ユーザーのグループメンバーシップに基づいて Active Directory または LDAP over SSL サーバから取得されます。XSCF 上で、Active Directory または LDAP over SSL サーバにある対応するグループ名を使用して `group` パラメータを設定する必要があります。各グループには、XSCF 上で設定されている権限が関連付けられます。ユーザーが認証されると、ユーザーのグループメンバーシップを使用してユーザーの権限が決定されます。

設定できるグループには、`administrator`、`operator`、および `custom` という 3 つのタイプがあります。`administrator` グループまたは `operator` グループを設定する場合、必要となるのはグループ名のみです。

`administrator` グループには、`platadm`、`useradm`、および `auditadm` 権限が関連付けられます。`operator` グループには、`platop` および `auditop` 権限が関連付けられます。`custom` グループを設定するには、グループ名と権限の両方が必要です。グループのタイプごとに、グループを 5 つまで設定できます。複数のグループに割り当てられたユーザーが受け取る権限は、それらのグループに関連付けられているすべての権限を合計したものになります。

これらの新しい機能をサポートするため、XSCF Web の Settings メニューに、2 つの新しい設定画面 Active Directory および LDAP over SSL が追加されました。リモートユーザーは、Active Directory または LDAP over SSL のいずれかで認証されると、XSCF Web にログインして XSCF Web を使用できます。

Active Directory をサポートするための XSCF の設定

setad(8) コマンドおよび showad(8) コマンドを使用して、Active Directory の設定をコマンドラインから設定および表示できます。

デフォルトでは、Active Directory のサポートは無効になっています。Active Directory のサポートを有効にするには、次のコマンドを使用します。

```
XSCF> setad enable
```

Active Directory のサポートを無効にするには、次のコマンドを使用します。

```
XSCF> setad disable
```

Active Directory のサポートが有効または無効のいずれになっているかを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showad
```

setad コマンドをさまざまなパラメータとともに使用して、Active Directory を設定します。たとえば、このコマンドを使用して、1つのプライマリ Active Directory サーバと 5つの代替 Active Directory サーバを設定する、グループ名と権限を割り当てる、特定のユーザードメインを設定する、診断メッセージのロギングを制御することなどができます。ユーザードメインは、XSCF 上で setad userdomain コマンドを使用して明示的に設定することも、ログインプロンプトに user@domain 形式で入力することもできます。

setad(8) および showad(8) のマニュアルページ、および表 3-8 にあるこれらのコマンドの注記を参照してください。

注 - Active Directory を設定および使用した後は、ファームウェアをダウングレードしないでください。ただし、XCP 1090 以前のリリースにダウングレードする必要がある場合は、ダウングレードの直後に **restoredefaults -c xscfu** コマンドを実行します。

LDAP over SSL をサポートするための XSCF の設定

setldapssl(8) コマンドおよび showldapssl(8) コマンドを使用して、LDAP over SSL の設定をコマンドラインから設定および表示できます。これらのコマンドは、setad(8) コマンドおよび showad(8) コマンドで Active Directory を対象として実行する内容を LDAP over SSL に実行するものであり、同一のパラメータを数多くサポートしています。

詳細については、`setldapssl(8)` および `showldapssl(8)` のマニュアルページを参照してください。

新しい proxyuser システムアカウント

Active Directory および LDAP over SSL をサポートするために、このリリースでは `proxyuser` という新しいシステムアカウントを導入しています。この名前を持つユーザーアカウントが存在していないことを確認してください。存在している場合は、`deleteuser(8)` コマンドを使用して削除してから、XSCF をリセットした後、Active Directory 機能または LDAP over SSL 機能を使用します。

サポートされている最小のファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザ

新規導入時の Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバには、Solaris™ Operating System および Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプレインストールされています。

表 1-1 に、SPARC64™ VI プロセッサおよび SPARC64 VII プロセッサがサポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム (OS) の最初のバージョンを示します。

表 1-1 サポートされている最小のファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

プロセッサのタイプ	XCP の最小バージョン	オペレーティングシステムの最小バージョン
SPARC64 VI プロセッサ	XCP 1040	Solaris 10 11/06 (必須パッチ適用済み)*
SPARC64 VII 2.52 GHz プロセッサ	XCP 1070	Solaris 10 8/07 (必須パッチ適用済み)*
SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサ	XCP 1090	Solaris 10 8/07 (Solaris 10 10/09 パッチバンドルおよび Sun Alert パッチクラスター適用済み)

* 「Solaris パッチ要件」(P.7) を参照してください。

最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。

XSCF Web は、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Web の動作することが確認されているウェブブラウザは、表 1-2 のとおりです。

表 1-2 確認されたウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Firefox	2.0 および 3.0
Microsoft Internet Explorer	6.0 および 7.0

Solaris パッチ要件

この項では、M8000/M9000 サーバで必須となるパッチ、パッチバンドル、および Sun Alert パッチクラスタを示します。

パッチ要件および特別なインストール手順については、必ずパッチの README を参照してください。

この項に示すパッチ ID は、インストールが必要なパッチの最小レベルを表しています。2 桁のサフィックスは、パッチの最小リビジョンレベルを表しています。

最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。パッチは、記載されている順序で適用します。

その他の Solaris OS の情報については、「[Solaris OS に関する問題と回避方法 \(P.35\)](#)」を参照してください。

Solaris 10 10/09

なし。ただし、M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバで Solaris 10 10/09 OS および IPMP を実行している場合は、プローブベースの障害検出を無効にして、CR 6888928 を修正する必要があります。InfoDoc 211105 (86869) を参照してください。

Solaris 10 5/09

なし。

Solaris 10 10/08

なし。

Solaris 10 5/08 (SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサを使用)

Solaris 10 10/09 パッチバンドルおよび Sun Alert パッチクラスタ。次のウェブサイトを参照してください。

<http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access>

Solaris 10 5/08 (SPARC64 VI プロセッサと SPARC64 VII 2.52 GHz プロセッサのいずれかまたは両方を使用)

パッチ 137137-09 – SunOS 5.10: カーネルパッチ。作業を開始する前に、システムをリブートします。

Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.88 GHz プロセッサを使用)

- Solaris 10 10/09 パッチバンドルおよび Sun Alert パッチクラスタ。次のウェブサイトを参照してください。
<http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access>
- また、SPARC64 VII プロセッサが含まれるドメインには Solaris 10 8/07 OS を新規インストールできません。この問題には、次の2つの回避方法があります。
 - パッチがすべて適用されたイメージを作成し、Jumpstart を使用する。
 - OS のインストールを SPARC64 VI プロセッサのみが含まれたドメインで開始し、必要なパッチを追加した後、ドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する。

Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.56 GHz プロセッサを使用)

次のパッチは、SPARC64 VII 2.56 GHz プロセッサを搭載した本体装置上の Solaris 10 8/07 OS に対してのみ必要です。次に示す順序でインストールします。

1. 119254-51 - SunOS 5.10: インストールおよびパッチユーティリティパッチ
2. 125891-01 - SunOS 5.10: libc_psr_hwcap.so.1 パッチ
3. 127755-01 - SunOS 5.10: Fault Manager パッチ
4. 127127-11 - SunOS 5.10: カーネルパッチ

Solaris 10 8/07 OS (パッチ 127127-11) は、通常の操作中にパニックまたはトラップすることがあります (CR 6720261)。この問題を回避するには、次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。

```
set heaplp_use_stlb=0
```

その後、ドメインをリブートしてください。

Solaris 10 8/07 (SPARC64 VI プロセッサを使用)

なし。

Solaris 10 11/06

Solaris 10 11/06 OS には、次のパッチが必要です。これらの必須パッチを適用しても、Solaris 10 11/06 では SPARC64 VII プロセッサはサポートされません。次に示す順序でパッチをインストールします。

1. 118833-36 – 次に進む前にドメインをリブートしてください。
2. 125100-10 – その他のパッチ要件の一覧については、パッチの README ファイルを参照してください。
3. 123839-07
4. 120068-03
5. 125424-01
6. 118918-24
7. 120222-21
8. 125127-01 – 次に進む前にドメインをリブートしてください。
9. 125670-02
10. 125166-05

Solaris パッチの入手方法

Sunsm Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、または最新の必須パッチのセットでシステムをアップデートできます。Sun Connection Update Manager の詳細については、次の URL にある『Sun Update Connection System Administration Guide』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/updconn.sys>

または、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://wikis.sun.com/display/SunConnection/Update+Manager>

インストール情報と README ファイルは、パッチのダウンロードに含まれていません。

システムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用して最新の Solaris OS パッチを入手するには、次の 2 つの方法があります。

- Update Manager GUI を使用してパッチを入手する。

詳細については、上記のリンクにある Sun Connection Update のドキュメントを参照してください。

- smpatch(1M) コマンドを使用してパッチを入手する。

詳細については、smpatch(1M) のマニュアルページまたはご使用の Solaris バージョンの一連のリファレンスマニュアルを参照してください。



注意 - Solaris 10 11/06 OS を実行する Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの場合、Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ 123003-03 および 124171-06 をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、<http://sunsolve.sun.com> から入手できます。

Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ

次に示す Emulex カードは、パッチ 120222-27 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek™ Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE2FC-EM4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE1FC-EM4)

QLogic PCIe カードのパッチ

次に示す QLogic カードは、パッチ 125166-10 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE2FC-QF4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE1FC-QF4)

XCP 1090 または XCP 1091 へのアップグレード

XCP 1050 以降を XCP 1090 または XCP 1091 にアップグレードできます。手順については、『Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

注 - XCP ファームウェアを XCP 1090 または XCP 1091 にアップデートした後、`rebootxscf(8)` コマンドを使用して XSCF をリセットします。

XCP 1050 より前のバージョンからのアップデート

XCP 1050 より前のバージョンを現在実行している場合は、XCP 1090 または XCP 1091 に直接アップデートできません。まず中間バージョンである 1050 ~ 1070 (1070 を含む) の XCP にアップデートします。手順については、対象とする中間バージョンのプロダクトノートを参照してください。

注 - `admin` という名前のアカウントがある場合は、XCP 1050 以降にアップデートする前に、`deleteuser(8)` コマンドを使用してそれらのアカウントを削除します。`admin` アカウント名は、XCP 1050 以降で予約されています。

特定タイプの XCP アップグレード実施後に必要となるドメイン再起動

XCP バージョン 1050 ~ 1070 (1070 を含む) から XCP 1090 または XCP 1091 へのアップデートの間に動作中であったドメインでは、Dynamic Reconfiguration (DR) を実行して SPARC64 VII プロセッサを追加または交換する場合、OpenBoot PROM ファームウェアをアップデートする必要があります。OpenBoot PROM ファームウェアは、XCP をアップデートし、ドメインを再起動するとアップデートされます。このため、SPARC64 VII プロセッサを追加したか交換したかにかかわらず、ファームウェアを最新の XCP リリースにアップデートした後は、すべてのドメインを再起動します。

機能の問題と制限事項

ここでは、本リリース時点でわかっている問題および制限事項について説明します。

SPARC64 VII プロセッサに関する制限事項



注意 - SPARC 64 VII プロセッサをシャーシに搭載する前に、XCP ファームウェアおよび Solaris OS のアップグレードを完了しておく必要があります。

一般的な機能の問題と制限事項



注意 - Dynamic Reconfiguration (DR) とホットプラグの問題については、「Solaris OS に関する問題と回避方法」(P.35) を参照してください。

- 次の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。adm、admin、apache、bin、daemon、default、ldap、nobody、ntp、operator、proxyuser、root、rpc、rpcuser、および sshd。
- Service Processor (SP) を Network Time Protocol (NTP) サーバとして使用しないでください。独立した NTP サーバを使用することによって、SP とドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTP の詳細については、Sun BluePrints™ のドキュメント『Using NTP to Control and Synchronize System Clocks』(<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>) を参照してください。
- 外部電源制御装置の外部電源制御インターフェースを使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
 - OS パニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (*CPUN/RTNU)
 - 本体装置ハードウェア異常信号 (電源異常、温度異常、ファン異常)
- XSCF を使用し、XCP をインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上に Web session ID error が表示されることがあります。また、Autologout 設定でタイムアウト時間を 30 分以上で指定すると、Internal Server Error が表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Web に接続し直してください。
- この XCP リリースの場合、XSCF ブラウザユーザーインターフェース (XSCF Web) は、PCI ボックス管理機能をサポートしていません。

- XSCF Web を使用するときは、ポップアップブロック設定を無効にし、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合はプラグインを削除してください。
- XSCF-LAN はオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LAN と接続するネットワーク機器は、オートネゴシエーションモードに設定してください。この設定を行わず、XSCF-LAN と全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE 802.3 の規約によって、XSCF-LAN は半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。
- DR および ZFS ファイルシステムは相互運用性に問題があるため、M8000/M9000 サーバは、UFS ファイルシステムを使用してプレインストールされ、出荷されています。詳細については、表 3-2 の CR 6522017 の説明および回避方法を参照してください。
- ドメインでサポートされるカードの数など、I/O オプションおよびストレージについては、次の Sun Cross Platform IO Support ページを参照してください。
<http://wikis.sun.com/display/PlatformIoSupport/Home/>
- CD-RW/DVD-RW ドライブユニットとテープドライブユニットは、同時に使用しないでください。
- 電源ケーブルは、二系統受電オプションなしの一系統受電サーバでは、冗長化されていません。すべての電源ケーブルは常時接続され、電源投入されていなければなりません。
- PCI ボックスを使用してホストサーバを外部ブートディスクドライブに接続することは、サポートされていません。
- 活性交換のために `addfru(8)` コマンドまたは `replacefru(8)` コマンドが使用された後、M8000/M9000 サーバ上で DR 操作が失敗することがあります (DR のために使用できないボードに関する誤ったメッセージが表示されます)。保守メニューで診断テストを実行せずに活性交換を行うと、この問題が発生します。この問題を回避するには、`addfru(8)` コマンドまたは `replacefru(8)` コマンドの保守メニューで診断を実行してください。復旧には、`testsmb(8)` コマンドを実行するか、`deletefru(8)` コマンドで CPU/ メモリボードユニットを削除してから `addfru(8)` コマンドを再実行してください。
- `setsnmp(8)` コマンドおよび `showsnmp(8)` コマンドが、許可の失敗をユーザーに通知しないことがあります。このような障害が発生した場合、SNMP トラップホストが動作していることを確認し、正しいユーザー名を使用してコマンドを再実行してください。

追加情報および手順

ここでは、本リリース時点でわかっている追加の問題および制限事項について説明します。

システムへのログイン

標準的なデフォルトのログインのほかに、M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバは、`admin` と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。`admin` ユーザーの権限は `useradm` 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名 / パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 `admin` としてログインすることはできません。一時 `admin` アカウントにパスワードはなく、またパスワードをこのアカウント用に追加することもできません。

デフォルトのユーザーとしてログインした後や、一時 `admin` としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録された後には、一時 `admin` アカウントは無効となります。

デフォルトのログインが使用される前に一時 `admin` としてログインできない場合には、`showuser -l` コマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。

WAN ブートサーバからのブート

WAN ブートインストール方法を使用すると、HTTP を使用してワイドエリアネットワーク (WAN) 経由でソフトウェアのブートとインストールを行うことができます。WAN ブートサーバから M8000/M9000 サーバをブートできるようにするには、適切な実行可能ファイル `wanboot` をインストールし、OpenBoot™ バージョン 4.24 以降を使用して、必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。

WAN ブートサーバの詳細については、使用している Solaris 10 OS のバージョンに対応する『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。Solaris 10 OS のドキュメントは次のウェブサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

実行可能ファイル `wanboot` をアップグレードしないと、本体装置でパニックが発生し、次のようなメッセージが表示されます。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

Sun Java Enterprise System

Sun Java™ Enterprise System は、ソフトウェア投資を最大限に活用するソフトウェアサービスとライフサイクルサービスの包括的なセットです。このソフトウェアおよびインストールの手順については、次のウェブアドレスを参照してください。

<http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/index.jsp>

このソフトウェアは、ご使用の本体装置で必須となるパッチを含んでいない場合があります。ソフトウェアのインストール後、システムに必須パッチが存在するかどうかを確認し、インストールする手順については、「Solaris パッチ要件」(P.7) を参照してください。

概要およびドキュメントについては、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/javaes/index.xml>

注 - Java Enterprise System 5 Update 1 をシステムにインストールすることによって発生する問題 (CR 6644798) に対処するために、Web Console SMF サービスを有効にする必要が生じる場合があります。

▼ Web Console SMF サービスの有効化

- 端末に root としてログインし、サービスを有効にします。

```
# svcadm enable svc:/system/webconsole:console
```

ソフトウェアの再読み込みが必要になった場合のダウンロードおよびインストール方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

ソフトウェアの最新コピーをダウンロードした場合は、使用している本体装置に必要なパッチがそのソフトウェアに含まれていないことがあります。ソフトウェアのインストール前に、システムに必須パッチが存在するかどうかを確認し、インストールする手順については、「Solaris パッチ要件」(P.7) を参照してください。

第 2 章

ハードウェアに関する情報

この項では、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのハードウェアに関する特記事項および問題点について説明します。

- 「ハードウェアに関する問題と回避方法」 (P.17)
 - 「ハードウェアドキュメントの変更予定」 (P.19)
-

ハードウェアに関する問題と回避方法

単一の J4200 JBOD ストレージレイからの複数のシステムのブート

Sun Storage J4200 SAS JBOD アレイは、6 つの汎用 SAS コネクタを備えています。ファームウェアバージョン 3A32 以降では、各コネクタをそれぞれ別の SAS イニシエーターに接続することによって、最大で 6 台のシステムをアレイに接続できます。各システムは、アレイ上のそれぞれ異なるディスクをブートデバイスとして使用できます。J4200 のアレイは 12 台のディスクを搭載しているため、各ブートデバイスをミラー化することで信頼性を向上できます。J4200 アレイを複数のゾーンに分割するように設定すると、さらにセキュリティの高い環境を構築できます。

詳細については、次のウェブサイトにある Sun StorageTek Common Array Manager のソフトウェアドキュメントを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/stor.armgr#hic>

次のドキュメントを参照してください。

- 『Sun StorageTek Common Array Manager ソフトウェアリリースノート 6.4.1』

- 『Sun StorageTek Common Array Manager ユーザーズガイドオープンシステム用』

DVD ドライブと cfgadm

Solaris の `cfgadm(1M)` コマンドを実行しても、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ上のドメインから DVD ドライブが構成解除されない場合があります。

Volume Management Daemon (`vold`) を無効にしてから、`cfgadm(1M)` コマンドを使用して DVD ドライブを構成解除してください。`vold` を無効にするには、コマンド `/etc/init.d/volmgt stop` を実行してデーモンを停止します。デバイスを減設または増設してから、コマンド `/etc/init.d/volmgt start` を実行してデーモンを再起動します。

Sun Crypto Accelerator 6000 カード

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードドライバの適切なバージョンを使用していない場合、SCA 6000 カードでホットプラグ操作を行うと、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバでパニックまたはハングが発生するおそれがあります。

SCA6000 ドライバおよびファームウェアのバージョン 1.1 の場合、必要なブートストラップファームウェアのアップグレードを行うと、ホットプラグ操作が可能になります。SCA6000 ドライバのバージョン 1.0 は、ホットプラグをサポートしていません。ホットプラグは使用しないでください。

U320 PCIe SCSI カード

U320 PCIe SCSI カード (部品番号 375-3357-01/02) は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの PCI カセットではサポートされていません。Part No. 375-3357-03 以降を使用する必要があります。

ハードウェアドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントセットの出版後に知られるようになった重要なハードウェア最新情報および変更内容を示します。

表 2-1 ハードウェアドキュメントの変更予定

タイトル	項番号	変更内容
『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバインストールレーションガイド』 819-4200-14	2.2.1 項	表 2.1 「環境条件」 「環境条件の確認」が更新されました。「 環境条件 」(P.21)を参照してください。
	2.2.2.1 項	表 2.3 「入力電源の接続仕様」 次の注記を追加します。 注 - B タイプのプラグを持つ本体装置の場合、30A の過電流保護デバイスが本体装置外にあることを確認します。このデバイスがない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) またはヒューズなど、30A の過電流保護を外部で実施できる手段を準備します。B タイププラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、および L5-15 など指します。
	3.4.3 項	3.4.3 「SPARC Enterprise M9000 サーバ基本筐体と拡張筐体間のケーブル接続」 次の注意が追加されました。 注意 - トルクドライバーを入手できない場合は、手でクロックケーブルのコネクターを固定します。通常のドライバーを使用して固定しないでください。
	3.6.3 項	「XSCF の初期設定」 「XSCF の初期設定」が更新されました。「 XSCF の初期設定 」(P.21)を参照してください。
『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル』	6.5 項	静電防止用リストストラップの情報を次の章に追加します。
	7.2 項	<ul style="list-style-type: none">第 6 章: 「CPU/ メモリボードユニット (CMU) および CPU と DIMM の交換」第 7 章: 「I/O ユニット (IOU) の交換」 「 静電防止用リストストラップの情報 」(P.23)を参照してください。

表 2-1 ハードウェアドキュメントの変更予定（続き）

タイトル	項番号	変更内容
『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』	1.2.1.2 項	表 1.3 「設置諸元（外形寸法と質量）」 重量に関する脚注を更新します。「 外形寸法と重量 」(P.27)を参照してください。
	3.2.1 項	「冷却（空調）条件」 「諸元（冷却 / 空調条件）」の表を更新します。「 冷却（空調）条件 」(P.27)を参照してください。
	3.3 項	次の表にある消費電力および皮相電力の値を変更します。 <ul style="list-style-type: none"> • 表 3.5 「諸元（単相電源条件）」 • 表 3.7 「諸元（三相デルタ電源条件）」 • 表 3.8 「諸元（三相スター電源条件）」 「 電源条件 」(P.29)を参照してください。
	3.3.6 項	「CPU の種類とサーバの最大消費電力」 「CPU の種類とサーバの最大消費電力」の情報を更新します。「 CPU の種類とサーバの最大消費電力 」(P.30)を参照してください。
『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要』	1.2.2 項	表 1.3 「消費電力の例」 「消費電力の例」の表を更新します。「 電源条件 」(P.31)を参照してください。

環境条件

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要』の 1.2.1 項にある表を次の表 2-2 の情報で更新します。

表 2-2 環境条件

	動作時	非動作時	最適条件
周囲 温度	5°C ~ 32°C (41°F ~ 89.6°F)	非梱包時： 0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F) 梱包時： -20°C ~ 60°C (-4°F ~ 140°F)	21°C ~ 23°C (70°F ~ 74°F)
相対 湿度*	20 ~ 80% 相対湿度	~ 93% 相対湿度	45 ~ 50% 相対湿度
高度 制限†	3,000 m (10,000 ft)	12,000 m (40,000 ft)	
温度 条件	5°C ~ 32°C (41°F ~ 89.6°F) : 海拔 0 ~ 1500 m (4921 ft) 未満設置時 5°C ~ 30°C (41°F ~ 86°F) : 海拔 1500 m (4921 ft) ~ 2000 m (6562 ft) 未満設置時 5°C ~ 28°C (41°F ~ 82.4°F) : 海拔 2000 m (6562 ft) ~ 2500 m (8202 ft) 未満設 置時 5°C ~ 26°C (41°F ~ 78.8°F) : 海拔 2500 m (8202 ft) ~ 3000 m (9843 ft) 以下設 置時		

* 温湿度条件によらず、結露しないことを前提としています。

† 高度はいずれも海拔で示しています。

XSCF の初期設定

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバインストールレーションガイド』の 3.6.3 「XSCF の初期設定」を次の情報で更新します。

XSCF の各機能を使用するに当たって、設定や確認が必要となります。ここでは、次の項目について、設定または確認をします。これらの設定および確認の詳細な手順については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』の「XSCF 使用のためのセットアップ」の項および『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』を参照してください。

- ユーザーのアカウントとパスワード、およびユーザー権限の登録 (adduser、password、および setprivileges) (注 1)
- 時刻の設定 (setdate、settimezone)
- SSH/telnet の設定 (setssh、settelnet)
- XSCF ホストの公開鍵の確認 (showssh)
- ネットワークインターフェース、ルーティング、および DNS に関連する設定 (setnetwork、setroute、setnameserver など) (注 2、注 3)
- Domain to Service Processor Communications Protocol (DSCP) の設定 (setdscp) (注 3)
- 高度の設定 (setaltitude) (注 4)
- CD-RW/DVD-RW ドライブユニットとテープドライブユニットの設定 (cfgdevice)

注 - (1) 保守作業の準備では、保守作業員 (FE; field engineer) のユーザーアカウントも準備します。

注 - (2) 設定を適用するには、applynetwork コマンドおよび rebootxscf コマンドを使用して XSCF ユニットの初期設定をリセットする必要があります。

注 - (3) シリアル接続を使用して XSCFU#1 にログインした後、ネットワークインターフェース (XSCF-LAN や Domain to Service Processor Communications Protocol (DSCP) など)、ルーティング、および DNS に関連する設定を実施する場合にも、同一の手順を使用します。

注 - (4) 指定した設定を適用するには、rebootxscf コマンドを実行して XSCF をリセットします。

静電防止用リストストラップの情報

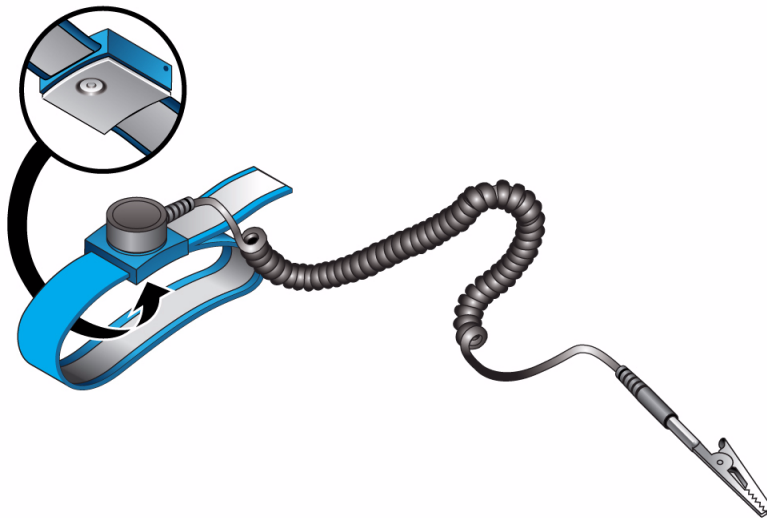
『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル』の次の章に、静電防止用リストストラップの情報を追加します。

- 第6章: 「CPU/ メモリボードユニット (CMU) および CPU と DIMM の交換」
- 第7章: 「I/O ユニット (IOU) の交換」

CMU または IOU を交換する場合は、静電防止用リストストラップの留め具を事前に筐体の接地ポートに接続し、リストストラップのベルトを一方の腕に装着する必要があります。

注 - リストストラップ内側の金属部分が肌に直接触れるようにする必要があります。リストストラップは手首にしっかりと固定し、回転しないようにします。

図 2-1 静電防止用リストストラップ内側の金属部分

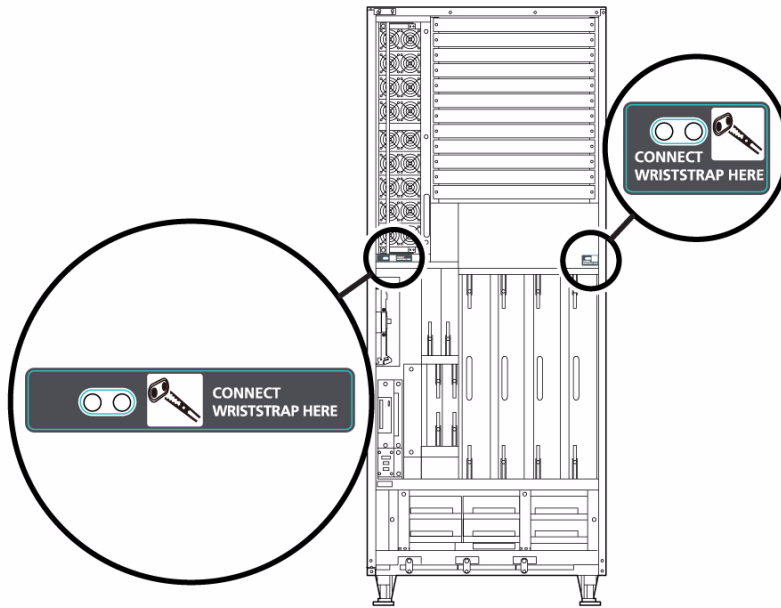


注意 - ダミー (フィラー) ユニット、CMU、および IOU には、静電防止用リストストラップを装着しないまま触れないでください。装着しないまま触れた場合、運用中のドメインが重大な損傷を受ける可能性があります。



注意 - 新しい CMU または IOU をシステムに取り付ける場合は、リストストラップを装着した状態で新しい CMU または IOU に 10 秒以上触れて、新しい CMU または IOU から静電気を事前に除去する必要があります。

図 2-2 リストストラップの留め具を接続する M8000 の接地ポートの位置



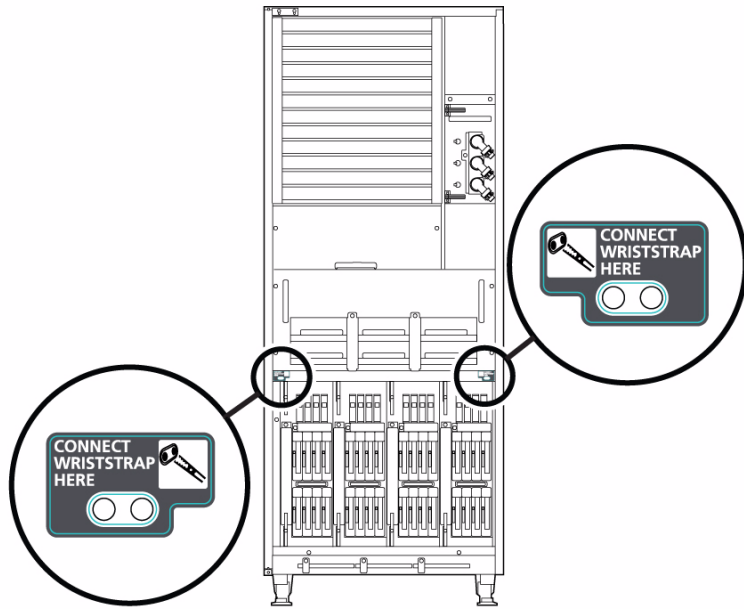
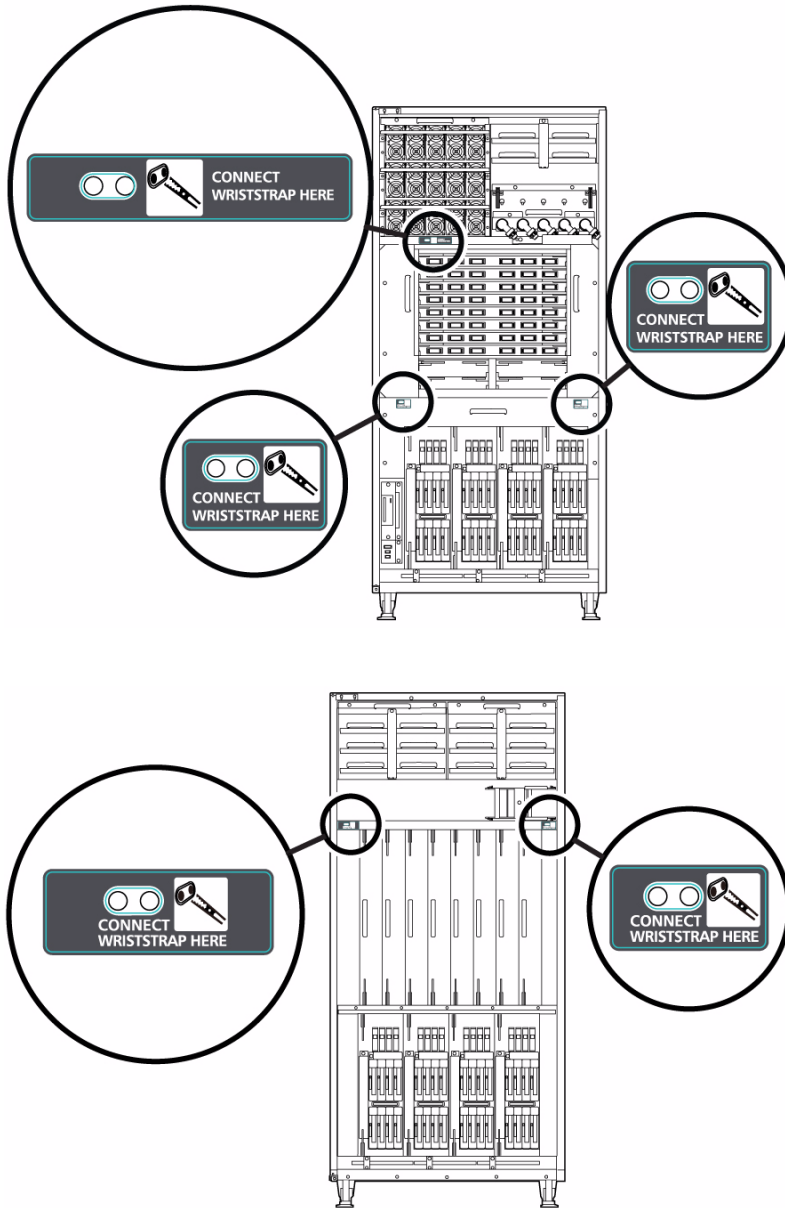


図 2-3 リストストラップの留め具を接続する M9000 の接地ポートの位置



外形寸法と重量

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の 1.2.1.2 項にある表を次の表 2-3 の情報で更新します。この表は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの筐体の外形寸法および重量を示しています。

表 2-3 設置諸元（外形寸法と重量）

品名	外形寸法 [mm (インチ)]				重量 [kg]
	幅	奥行	高さ		
SPARC Enterprise M8000 サーバ	750 (29.5)	1260 (49.6)	1800 (70.9)	700*	
M8000+ 電源筐体	1054 (41.5)	1260 (49.6)	1800 (70.9)	1020	
SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体)	850 (33.5)	1260 (49.6)	1800 (70.9)	940	
M9000 (基本筐体) + 電源筐体	1154 (45.4)	1260 (49.6)	1800 (70.9)	1290	
M9000 (基本筐体 + 拡張筐体)	1674 (65.9)	1260 (49.6)	1800 (70.9)	1880†	
M9000 (基本筐体 + 拡張筐体) + 電源筐体	2282 (89.8)	1260 (49.6)	1800 (70.9)	2580	
ラックマウント可能な二系統受電 機構	489 (19.3)	1003 (39.5)	278 (10.9) [6U]	75‡	
電源筐体	317 (12.5)	1244 (49.0)	1800 (70.9)	350**	

* この表に記載した重量は、フル実装の本体装置（CMU、IOU、PCI、および DIMM のすべてのスロットに装着済み）の場合を示しています。この重量には、PCI ボックスなどのオプションハードウェアの重量は含まれていません。

† 基本筐体と拡張筐体を組み合わせる場合、それぞれの筐体の幅は 837 mm です（外側の側面パネルを含む）。

‡ ラックマウント可能な二系統受電機構は、19 インチラックにのみ搭載できます。

** 電源筐体の幅には、外側の側面パネルが含まれています。

冷却（空調）条件

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の 3.2.1 「諸元（冷却 / 空調条件）」の表を次の表 2-4 の情報で更新します。この表には、各システムコンポーネントの冷却および空調に関する条件が示されています。

表 2-4 諸元 (冷却 / 空調条件)

品名	発熱量 [kJ/h]	排気量 [cmh(m ³ /h)]	冷却方法	空調条件	騒音値 [dBA]
SPARC Enterprise M8000 サーバ	13968 ~ 37764 *	94	床上 / 床下	強制冷却	67
SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体)	22320 ~ 71532 *	102	床上 / 床下	強制冷却	68
SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体 + 拡張筐 体)	42912 ~ 142956 *	205	床下 ‡	強制冷却	69
ラックマウント可能な二系統 受電機構	- †	- †	床上 / 床下	強制冷却	- †
電源筐体 (SPARC Enterprise M8000 サーバ)	- †	- †	床上 / 床下	強制冷却	- †
電源筐体 (SPARC Enterprise M9000 サーバ基本筐体の場 合)	- †	- †	床上 / 床下	強制冷却	- †
電源筐体 (SPARC Enterprise M9000 サーバ基本筐体 + 拡張 筐体の場合)	- †	- †	床下 ‡	強制冷却	- †

* 発熱量は消費電力により異なります。実際のシステム構成に即した消費電力決定後に正確な値をご確認ください。

† 電源筐体の発熱量、排気量、および騒音値は、SPARC Enterprise M8000 サーバまたは SPARC Enterprise M9000 サーバの値に含まれています。

‡ 海拔 0 ~ 400 m (1312 ft) 未満に設置する場合は、本体装置の冷却方法として床上冷却を選択できます。

電源条件

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の 3.3 項を次の表で更新します。

表 2-5 諸元* (単相電源条件)

名称	消費電力 [kW]	皮相電力 [kVA]
SPARC Enterprise M8000 サーバ	3.88 ~ 10.49	4.11 ~ 11.12
SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体)	6.20 ~ 19.87	6.58 ~ 21.07
SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体 + 拡張筐体)	11.92 ~ 39.72	12.64 ~ 42.13

* 最大消費電力および皮相電力の値は、搭載されている CPU の種類によって異なります。異なる CPU を本体装置に混在搭載している場合は、CPU の消費電力が大きい方を基準にして設置計画を行ってください。CPU の種類については、『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の 3.3.6 「CPU の種類とサーバの最大消費電力」を参照してください。

表 2-6 諸元* (三相デルタ電源条件)

名称	消費電力 [kW]	皮相電力 [kVA]
SPARC Enterprise M8000 サーバ + 電源筐体	3.88 ~ 10.49	4.11 ~ 11.12
SPARC Enterprise M9000 サーバ 基本筐体 + 電源筐体	6.20 ~ 19.87	6.58 ~ 21.07
SPARC Enterprise 9000 サーバ (基本筐体 + 拡張筐体) + 電源筐体	11.92 ~ 39.72	12.64 ~ 42.13

* 最大消費電力および皮相電力の値は、搭載されている CPU の種類によって異なります。異なる CPU を本体装置に混在搭載している場合は、CPU の消費電力が大きい方を基準にして設置計画を行ってください。CPU の種類については、『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の 3.3.6 「CPU の種類とサーバの最大消費電力」を参照してください。

表 2-7 諸元* (三相スター電源条件)

名称	消費電力 [kW]	皮相電力 [kVA]
SPARC Enterprise M8000 サーバ + 電源筐体	3.88 ~ 10.49	4.11 ~ 11.12
SPARC Enterprise M9000 サーバ 基本筐体 + 電源筐体	6.20 ~ 19.87	6.58 ~ 21.07
SPARC Enterprise 9000 サーバ (基本筐体 + 拡張筐体) + 電源筐体	11.92 ~ 39.72	12.64 ~ 42.13

* 最大消費電力および皮相電力の値は、搭載されている CPU の種類によって異なります。異なる CPU を本体装置に混在搭載している場合は、CPU の消費電力が大きい方を基準にして設置計画を行ってください。CPU の種類については、『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の 3.3.6 「CPU の種類とサーバの最大消費電力」を参照してください。

CPU の種類とサーバの最大消費電力

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』の 3.3.6 「CPU の種類とサーバの最大消費電力」の情報を次の情報（次の表を含む）で更新します。

ここでは、CPU の種類と本体装置の最大消費電力について説明します。CPU の種類は 4 種類あります。SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバは、CPU の種類とシステムの構成によって電源条件が異なります。

次の表は、CPU の種類ごとに最大消費電力、皮相電力、および発熱量の仕様を示したものです。各表の下に記載されているシステム構成において、すべての CPU/メモリーボードユニット（CMU）に同一の CPU を搭載した場合の数値を示しています。

表 2-8 M8000 サーバの CPU の種類および電源条件*

CPU	周波数 (GHz)	個数	消費電力 (KW)	皮相電力 (kVA)	発熱量 (kJ/h)
SPARC64 VI プロ セッサ	2.28	16	9.42	9.99	33912
	2.4	16	9.52	10.09	34272
SPARC64 VII プロ セッサ	2.52	16	10.07	10.68	36252
	2.88	16	10.49	11.12	37764

* M8000 システムの構成 : CMU x 4、4GB DIMM x 128、IOU x 4、HDD x 16、PCI-E x 32、DAT x1。

表 2-9 M9000 サーバ（基本筐体）の CPU の種類および電源条件*

CPU	周波数 (GHz)	個数	消費電力 (KW)	皮相電力 (kVA)	発熱量 (kJ/h)
SPARC64 VI プロ セッサ	2.28	32	18.06	19.16	65016
	2.4	32	18.26	19.37	65736
SPARC64 VII プロ セッサ	2.52	32	19.36	20.54	69696
	2.88	32	19.87	21.07	71532

* M9000（基本筐体）システムの構成 : CMU x 4、4GB DIMM x 128、IOU x 4、HDD x 16、PCI-E x 32、DAT x1。

表 2-10 M9000 サーバ（基本筐体 + 拡張筐体）の CPU の種類および電源条件*

CPU	周波数 (GHz)	個数	消費電力 (KW)	皮相電力 (kVA)	発熱量 (kJ/h)
SPARC64 VI プロ セッサ	2.28	64	36.11	38.30	129996
	2.4	64	36.51	38.73	131436
SPARC64 VII プロ セッサ	2.52	64	38.71	41.06	139356
	2.88	64	39.72	42.13	142992

* M9000 (基本筐体 + 拡張筐体) システムの構成 : CMU x 16、4GB DIMM x 512、IOU x 16、HDD x 64、PCI-E x 128、DAT x 2。

電源条件

『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要』の 1.2.2 項を次の情報 (次の表を含む) で更新します。この表は、ある特定の構成およびプログラム負荷における消費電力の例です。システムの消費電力は、システムの構成や動作中のプログラムの特性、周囲温度によって変化します。

表 2-11 消費電力の例

アイテム	M8000	M9000	
		基本筐体のみ	基本筐体 + 拡張筐体
環境温度	25 °C	25 °C	25 °C
構成*	CMU: 2.52GHz CPU x 4、 4GB DIMM x 32	8	16
	IOU: 73GB HDD x 4、 PCIe カード x 8	8	16
消費電力†	7.48 kW	14.64 kW	29.96 kW

* 消費電力 10W の PCIe カードが搭載されています。

† これらの消費電力は一例です。ご使用の本体装置の作業負荷特性によっては、より高い消費電力値が確認される場合があります。

第 3 章

ソフトウェアに関する情報

ここでは、特定のソフトウェアとファームウェアの問題とその回避方法について説明します。ここでは、次の内容について説明します。

- 「XCP に関する問題と回避方法」 (P.33)
- 「Solaris OS に関する問題と回避方法」 (P.35)
- 「ドキュメントの変更予定」 (P.50)

パッチを入手する方法、およびこれらの問題を修正するパッチが入手可能かどうかを確認する方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

XCP に関する問題と回避方法

表 3-1 に XCP の問題と実行可能な回避方法を示します。

表 3-1 XCP に関する問題と回避方法

ID	説明	回避方法
6760740 および 6894410	次のいずれかの条件に該当する場合は、XSCF が停止してリポートが必要になるか、コンソールエラーメッセージおよびコアダンプ (ereport.chassis.software.core) が表示されることがあります。 <ul style="list-style-type: none">• ユーザー ID に 65536 よりも大きい値を明示的に割り当てるようにして、ローカルアカウントが作成された (adduser -u uid)。• UID の値が 65536 よりも大きい LDAP アカウントが使用された。	ユーザー ID (UID) の値が 100 ~ 60000 のユーザーアカウントのみ使用してください。これは、XSCF コマンドの adduser で自動的に割り当てられる UID の範囲です。

表 3-1 XCP に関する問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
6765468	長さが 3 文字以外のタイムゾーンが設定されている場合、XSCF Web の「Error Log」ページにエラーログを表示できません。また、XSCF Web の「Panic Log」ページおよび「IPL Message Log」ページの表では、日付が「---」と表示されます。	XSCF シェルで <code>showlogs(8)</code> コマンドを使用してください。
6789066	<code>settimezone -c adddst</code> コマンドで、タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前を 8 文字以上で設定した場合、 <code>showlogs</code> コマンドを実行するとセグメンテーションに失敗し、エラーが発生します。	タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前は、7 文字以下で指定します。
6851009	スタンドアロンの NTP サーバ上で特定の変更が発生すると、NTP サーバへの XSCF 接続が失われ、XSCF は代わりにローカルクロックを使用します。この問題が発生するのは、スタンドアロンの NTP サーバ、つまり、上位層の NTP サーバではなく自身のローカルクロック (LCL) と時刻を同期する NTP サーバを使用している場合です。この変更の発生原因になる可能性があるのは、次の変更です。 <ul style="list-style-type: none"> • NTP サーバをリセットする • 日付を 1 秒でも変更する • NTP サーバの層を変更する 	<p>XSCF LCL および NTP サーバが、両方とも 127.127.1.0 に設定されていないかどうかを確認してください。このように設定されている場合は、いずれか一方を変更します。</p> <p>注 - 変更を実施する場合は、変更によって他の NTP クライアントが影響を受けないことを事前に確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NTP サーバ上で値を変更するには、NTP ホスト設定ファイル (<code>/etc/inet/ntp.conf</code>) を別の値に変更した後、XSCF をリポートして変更内容を適用します。別の値の例としては、127.127.1.1、127.127.1.2、127.127.1.3 などがあります。 • XSCF 側で値を変更するには、<code>setntp</code> コマンドを使用します。たとえば、次のように入力します。 <code>setntp -m localaddr=2</code> 値が 127.127.1.2 に設定されます。
6870490	M4000/M5000 サーバおよび M8000/M9000 サーバ上で、XSCF が停止している間にファンのアラーム条件を変更した場合、XSCF のブート時に無視されます。	<code>replacefru(8)</code> コマンドを実行して、正常に動作しているファンを見かけ上交換した後、 <code>showenvironment fan</code> を使用してファンの速度を確認します。 <code>showenvironment(8)</code> のマニュアルページを参照してください。
6893578	Active Directory または LDAP over SSL を通じて認証されたユーザーは、 <code>console(8)</code> コマンドを実行してドメインコンソールを取得できません。 <code>showconsolepath(8)</code> コマンドを実行すると、このようなコンソールユーザーは、実際のユーザー名ではなく <code>proxyuser</code> として表示されます。	回避方法はありません。

Solaris OS に関する問題と回避方法

この項では、Solaris OS に関する問題について説明します。次の表に、Solaris OS で発生しうる問題を使用リリース別に示します。

サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題

すべての Solaris リリースで発生しうる Solaris OS の問題を、表 3-2 に示します。ドメインが最新の Solaris リリースを実行していない場合は、使用中のリリースよりも新しいリリースで修正されている CR（以降の各表を参照）にも留意してください。

表 3-2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
4816837	中断状態で SP DR のパラレルホットプラグ操作を実行したときに、システムがハングします。	回避方法はありません。
6459540	M4000/M5000/M8000/M9000 サーバに接続された DAT72 内蔵テープドライブユニットが、テープの処理中にタイムアウトすることがあります。 また、デバイスがシステムに QIC ドライブとして識別されることもあります。	以下の定義を、/kernel/drv/st.conf に追加してください。 tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT____DAT72-000", "SEAGATE_DAT____DAT72-000"; SEAGATE_DAT____DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3; SEAGATE DAT と DAT72-000 の間には半角スペースが 4 つ必要です。
6522017	ZFS ファイルシステムを使用しているドメインは、DR を使用できません。	ZFS ARC の最大サイズを小さくしてください。詳細については、当社技術員にお問い合わせください。
6531036	boot net によるインストール後に、エラーメッセージ network initialization failed が繰り返し表示されます。	回避方法はありません。

表 3-2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6532215	ドメインのブート時に volfs や dscsp サービスの起動が失敗することがあります。	サービスを再起動してください。この問題を事前に回避する場合は、以下のコマンドを実行してください。 <pre># svccfg -s dscsp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscsp # svcadm refresh volfs</pre>
6674266	DR deleteboard(8) および moveboard(8) 操作が失敗することがあります。 ドメインに表示されるメッセージの例を次に示します。 drmach: WARNING: Device driver failure: /pci dcs: <xxxx> config_change_state: Hardware specific failure: unconfigure SB1: Device driver failure: /pci	DR 操作を再実行してください。
6588650	バックアップ XSCF への XSCF フェイルオーバーまたはバックアップ XSCF からの XSCF フェイルオーバーの後、システムの DR が不可能となる場合があります。	回避方法はありません。
6589644	addboard コマンドでシステムボードが追加された後、M8000/M9000 サーバ上で XSCF の切り替えが発生したときに、コンソールが認識されなくなります。	コンソールを復旧させるには、次のキーを押します。 Ctrl-q (「Ctrl」キーと「q」キー)
6592302	DR 操作が失敗すると、メモリが一部未設定のままになります。	addboard -d コマンドを使用してボードをドメインに戻し、復旧することができます。復旧できない場合は、deleteboard(8) を再実行してください。
6625734	シングルドメイン環境で多数のプロセッサが存在するシステムでは、一定の負荷を伴う準最適パフォーマンスになることがあります。	プロセッサセットを使用して、アプリケーションプロセッサまたは LWP をプロセッサのグループにバインドしてください。詳細については、psrset(1M) のマニュアルページを参照してください。

表 3-2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6660168	<p>ドメイン上で <code>ubc.piowbeue-cpu</code> エラーが発生すると Solaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code> モジュールが失敗し、FMA サービスが停止することがあります。</p> <p>これが発生すると、コンソールログに以下の例のように出力されます。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: <hostname> SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1- cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled. Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use <code>fmdump -v -u <EVENT -ID></code> to locate the module. Use <code>fmadm reset <module></code> to reset the module.</pre>	<p><code>fmd</code> サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre> <p>その後、<code>cpumem-diagnosis</code> を再起動します。</p> <pre># fmadm restart cpumem-diagnosis</pre>
6668237	<p>DIMM を交換しても、該当する DIMM の故障がドメインから消去されません。</p>	<p>次のコマンドを使用します。</p> <pre># fmadm repair fmri uuid</pre> <pre># fmadm rotate</pre>
6745410	<p>システムをブートしないようにする <code>Kadb</code> オプションが、ブートプログラムで無視されます。</p>	<p><code>kadb</code> の代わりに <code>kmdb</code> を使用してください。</p>
6794630	<p>2TB よりも大きいドメインに GUI を使用して Solaris をインストールしようとする、失敗する場合があります。</p>	<p>コマンドラインインターフェースを使用して Solaris をインストールしてください。</p>

表 3-2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6872501	XSCF によって要求された場合、コアがオフラインになりません。	サービスプロセッサ上で、 <code>-v</code> オプションを指定して <code>fmdump(1M)</code> を使用し、障害のあるコアを識別します。識別した後、ドメインで <code>psradm(8)</code> を使用してコアをオフラインにします。
6888928	IPMP インターフェースで、プローブパケットがそのインターフェースを通じて送信されていない場合に問題が発生します。問題が発生するのは、M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバで Solaris 10 10/09 OS および IPMP を実行している場合、またはパッチ 141444-09 がインストールされたいずれかの Solaris リリースで IPMP を実行している場合です。	プローブベースの障害検出を無効にします。InfoDoc 211105 (86869) を参照してください。

Solaris 10 10/09 で修正された Solaris の問題

表 3-3 に、Solaris 10 10/09 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-3 Solaris 10 10/09 で修正された Solaris OS の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6572827	<code>prtdiag -v</code> コマンドで PCI バスのタイプが間違っで出力されます。PCI-X リーフデバイスが「PCI」、レガシー PCI デバイスが「UNKN」と表示されます。	回避方法はありません。
6724307	スケジューラの決定が不均衡になる場合があります。 あるコア上に 2 つのスレッド (両方ともほぼ半分の速度で動作します) が存在し、同時に別のコアがアイドルになっていることがあります。多くの OpenMP および類似のパラレルアプリケーションでは、アプリケーションのパフォーマンスが、最も遅いスレッドの速度に制限されます。 不均衡なスケジューリングは一般的ではありません (50 の決定に 1 つまたは 100 の決定に 1 つ程度になると考えられます)。ただし、128 のスレッドが動作している場合、アプリケーションには不均衡なスケジューリングイベントが 1 つ以上存在する可能性があります。	プロセッサセットを使用して、コア割り当てに對する不均衡なスレッドを防止してください。

表 3-3 Solaris 10 10/09 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6800734	ドメインで deleteboard がハングします。	回避方法はありません。
6821108	DR および showdevices が、XSCF のリポート後に動作しません。	XSCF サービスプロセッサを 2 回リブートします。最初のリポートで SA の半数が削除され、2 回目で残りの半数が削除されます。2 回目の追加は成功して、IPSec 通信が再確立されます。
6827340	SCF コマンドのエラーによって、DR およびメモリ巡回に失敗することがあります。	回避方法はありません。

Solaris 10 5/09 で修正された Solaris の問題

表 3-4 に、Solaris 10 5/09 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-4 Solaris 10 5/09 で修正された Solaris OS の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6588555	カーネルメモリで DR 操作中に XSCF をリセットすると、ドメインがパニックすることがあります。	DR 操作の進行中は、XSCF リセットを起動しないでください。DR 操作が完了するのを待ってから、リセットを開始します。
6623226	Solaris コマンドの lockstat(1M) や dtrace lockstat provider で、システムパニックが発生することがあります。	Solaris の lockstat(1M) コマンドおよび dtrace lockstat provider を使用しないでください。
6680733	負荷が高い状況で、Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC) および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) NIC がパニックすることがあります。	可能な場合は、カードを x8 スロットで使用します。このように構成できない場合、回避方法はあります。
6689757	単一の XFP 光トランシーバまたは正しく取り付けられていない XFP 光トランシーバで Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) を使用すると、次のエラーがコンソールに表示されることがあります。 The XFP optical transceiver is broken or missing.	両方の XFP 光トランシーバが筐体にしっかりと装着されていることを確認してください。INTEL と Sun の XFP 光トランシーバを同じアダプターに混在させないでください。ポートに XFP 光トランシーバが含まれていない場合、またはポートに XFP 光トランシーバが含まれていても未使用の場合は、ifconfig コマンドでポートを精査しないでください。

Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題

表 3-5 に、Solaris 10 10/08 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-5 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6511374	エラーが多すぎてメモリバンクが無効になった場合は、ブート中にメモリ変換の警告メッセージが表示されることがあります。	システムのリブート後に、 <code>fmadm repair</code> コマンドを使用して、次回ブート時に問題が再現しないようにできます。
6533686	XSCF でシステムリソースが不足している場合、カーネルメモリを移動する <code>DR deleteboard</code> または <code>moveboard</code> 操作が、次に示す 1 つ以上のエラーで失敗することがあります。 SCF busy DR parallel copy timeout この問題が発生するのは、マルチドメインのホストである Quad-XSB 構成のシステムボードだけです。	後で、DR 操作を再実行してください。
6535018	SPARC64 VII プロセッサを搭載した Solaris ドメインでは、スレッド数を 256 超の値に増やしても、Solaris カーネルの使用負荷が予想どおりに上がらないことがあります。	SPARC64 VII プロセッサを搭載した Solaris ドメインでは、ドメインを最大 256 スレッドに制限してください。
6556742	DR 時に DiskSuite が <code>metadb</code> を読めない場合、システムがパニックします。このバグの影響を受けるカードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• SG-XPCIE2FC-QF4, 4Gb PCI-e Dual-Port Fiber Channel HBA• SG-XPCIE1FC-QF4, 4Gb PCI-e Single-Port Fiber Channel HBA• SG-XPCI2FC-QF4, 4Gb PCI-X Dual-Port Fiber Channel HBA• SG-XPCI1FC-QF4, 4Gb PCI-X Single-Port Fiber Channel HBA	<code>metadb</code> の複製コピーに別のホストバスアダプターを介してアクセス可能であれば、パニックは回避できます。

表 3-5 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6589833	<p>SAP プロセスが Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA カード (SG-XPCIE2FC-QF4) に接続された記憶装置にアクセスしようとしているときにこのカードを追加しようとすると、DR addboard コマンドによりシステムがハングするおそれがあります。ネットワークトラフィックが多い状況で以下のカードを使用していると、システムがハングする危険が大きくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>回避方法はありません。</p>
6614737	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR deleteboard(8) および moveboard(8) 操作がハングすることがあります。 DIMM が縮退している。 ドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっている。</p>	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR 操作を実行しないようにしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 縮退メモリ - システムに縮退メモリが含まれているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showstatus を使用します。 • 異なるメモリサイズ - ドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showdevices またはドメインで prttdiag コマンドを使用してメモリサイズのリストを表示します。 <p>DR コマンドがハングした場合は、復旧させるためにドメインをリブートしてください。</p>
6619224	<p>SPARC 64 VII プロセッサを搭載した Solaris ドメインでは、256 スレッド以上のシングルドメインが、一定の異常状態で長期間にわたってハングすることがあります。復旧時に、uptime コマンドは極端に高い負荷平均を示します。</p>	<p>SPARC 64 VII プロセッサを搭載した Solaris ドメインでは、シングル Solaris ドメインで 256 の仮想プロセッサのドメインサイズを超過しないようにしてください。つまり、シングルドメイン構成で最大 32 CPU になります (M8000 サーバの最大構成)。</p>
6632549	<p>ドメインでの fmd service が、DR 操作後に保守モードの開始に失敗することがあります。</p>	<p>ドメインで次のコマンドを実行します。 # svcadm clear fmd</p>
6660197	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR によってドメインがハングすることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ドメインに 256 以上の CPU が含まれている。 • メモリエラーが発生し、DIMM が縮退している。 	<p>次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。 set drmach:drmach_disable_mcopy = 1</p> <p>1. ドメインをリブートしてください。</p>

表 3-5 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6720261	ドメインが Solaris 10 5/08 OS を実行している場合、通常の操作中にシステムがパニックまたはトラップすることがあります。	次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。 set heaplp_use_stlb=0 その後、ドメインをリポートしてください。
6679370	システムのブート中、ホットプラグを使用した PCI ボックスの追加中、または DR による FMEMA の操作中に、次のメッセージがコンソールに出力されることがあります。 SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical ... DESC: A problem was detected in the PCIEExpress subsystem. Refer to http://sun.com/msg/SUN4-8000-75 for more information. ...	/etc/system に次の行を追加し、ドメインをリポートしてください。 set pcie_expected_ce_mask = 0x2001

Solaris 10 5/08 で修正された Solaris の問題

表 3-6 に、Solaris 10 5/08 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
5076574	大規模な M8000/M9000 ドメインでは、PCIe エラーが発生すると障害診断が無効になるおそれがあります。	次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.conf を作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m
6348554	以下のカードで <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用すると、コマンドがハングアップするおそれがあります。 <ul style="list-style-type: none">• SG-XPCIE2FC-QF4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA)• SG-XPCIE1FC-QF4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA)• SG-XPCI2FC-QF4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-X HBA)• SG-XPCI1FC-QF4 (Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCI-X HBA)	影響のあるカードでは、 <code>cfgadm -c disconnect</code> 操作を実行しないでください。
6402328	1 つのドメイン内で 6 つを超える IOUA カード (基本 I/O カード) を使用すると、I/O 負荷が高いときにパニックが発生することがあります。	1 つのドメイン内の IOUA の数は、最大で 6 つまでに制限してください。
6472153	M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ以外の <code>sun4u</code> サーバ上に Solaris フラッシュアーカイブを作成し、それをこれらのサーバのいずれかにインストールすると、コンソールの TTY フラグが正しく設定されません。このため、負荷がかかっているときにコンソールに文字が表示されなくなる場合があります。	Solaris フラッシュアーカイブから Solaris OS をインストールした直後に M4000/M5000/M8000/M9000 サーバに <code>telnet</code> で入り、コンソールの TTY フラグを以下のよう にリセットします。 <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre>
6505921	システム PCIe バスコントローラの修正可能なエラーによって、無効な障害が発生します。	この作業は 1 回だけ実行してください。 次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.conf を作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6522433	リポート後の CPU 障害によって、 <code>fmddump</code> が正しいマザーボードを識別できないことがあります。	XSCF のシステムステータスを確認してください。
6527811	XSCF 上で <code>showhardconf(8)</code> コマンドを使用すると、PCI ホットプラグを使用して PCI ボックスが設定されていても、PCI ボックスにインストールされている PCI カード情報を表示することができません。	回避方法はありません。PCI ボックス内の各 PCI カードが PCI ホットプラグを使用して設定されていれば、PCI カード情報は正しく表示されます。
6536564	<code>showlogs(8)</code> および <code>showstatus(8)</code> コマンドが、別の I/O コンポーネントを報告することがあります。	<p>この問題を事前に回避する場合は、ドメインで以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># cd /usr/platform \ /SUNW,SPARCEnterprise/lib/fm/topo \ /plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd</pre> <p>次のメッセージが表示された場合は、当社技術員までご連絡ください。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc</pre>
6545143	ユーザースタックアドレスの TLB ミスのトラップ処理中にシステムパニックがまれに発生することがあります。この問題は、フラッシュウインドウトラップ (<code>ta 3</code>) を実行するユーザープロセスと同時に、ユーザースタックの対応付けが解除される場合に発生する可能性があります。パニックメッセージには、次の文字列が含まれています。 <code>bad kernel MMU trap at TL 2</code>	回避方法はありません。
6545685	電源投入自己テスト (POST) で修正可能なメモリエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って 4DIMM または 8DIMM に縮退することがあります。	<code>/etc/system</code> で次のように設定し、使用されるメモリ巡回タイムアウト値を増やしてから、システムをリポートします。 <code>set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000</code>

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6546188	以下のカード上でホットプラグ (cfgadm) および DR 操作 (addboard および deleteboard) を実行すると、システムがパニックします。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	回避方法はありません。
6551356	未設定のカードを設定するためにホットプラグ (cfgadm) を実行すると、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、「警告: PCI 拡張 ROM にアクセスできません」というメッセージがコンソール上に表示されます。次のカードがこのバグの影響を受けます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	カードを完全に取り外すには、 <code>cfgadm -c disconnect</code> を使用します。10 秒以上待ってから、 <code>cfgadm -c configure</code> コマンドを使用してカードの設定をドメインに戻すことができます。
6559504	以下のカードを使用すると、 <code>nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn</code> という形式のメッセージがコンソールに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	これらのメッセージは無視して差し支えありません。
6563785	以下のカードでホットプラグ操作を行った場合、カードを切断してその直後に再接続すると、ホットプラグ操作が失敗することがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2SCSIU320Z Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA • SGXPCI2SCSILM320-Z Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra320 SCSI HBA 	カードを切断した後、数秒待ってから再接続してください。
6564934	以下のネットワークカードを使用しているときにカーネルメモリを搭載したボードに対して DR deleteboard 操作を実行すると、接続が切れます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	DR 操作が完了してから、影響を受けたネットワークインターフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順についての詳細は、 <code>ifconfig</code> のマニュアルページを参照してください。

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6568417	<p>CPU DR deleteboard 操作が正常に終了した後、次のネットワークインターフェースが使用されていると、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/system に次の行を追加し、システムをリポートしてください。</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>
6571370	<p>実験環境でストレス試験を実行した結果、以下のカードでデータ破壊が発生しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/system に次の行を追加し、システムをリポートしてください。</p> <pre>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</pre>
6584984	<p>-w を指定して busstat(1M) コマンドを実行すると、M8000/M9000 サーバドメインがリポートされることがあります。</p>	<p>回避方法はありません。-w オプションを指定して busstat(1M) コマンドを pcmu_p で実行しないでください。</p>
6589546	<p>prtdiag は、次のカードのすべての I/O デバイスを表示するわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA • SG-XPCIE1FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA 	<p>完全出力には prtdiag -v を使用してください。</p>
6663570	<p>番号の一番小さい CPU が DR 操作に関係している場合、ドメインがパニックすることがあります。</p>	<p>CPU ID が最も小さい CPU をホストしているシステムボードは、DR を使用して削除しないでください。CPU ID が最も小さい CPU を識別するには、Solaris の prtdiag コマンドを使用します。</p>

Solaris 10 8/07 で修正された Solaris の問題

表 3-7 に、Solaris 10 8/07 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6303418	シングルドメインで 11 以上のフル実装システムボードを備える M9000 サーバは、負荷が高い状況でハングすることがあります。	CPU スレッドの数が 170 を超えないようにしてください。 Solaris <code>psradm</code> コマンドを使用して過剰な CPU スレッドを無効にして、CPU スレッドの数を CPU コアあたり 1 つに制限してください。たとえば、奇数の CPU スレッドをすべて無効にします。
6416224	単一の NIC カードの接続数が 5,000 を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。	複数の NIC カードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。
6441349	I/O エラーでシステムがハングすることがあります。	回避方法はありません。
6485555	レースコンディションにより、オンボードの Gigabit Ethernet NVRAM に障害が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。	回避方法はありません。
6496337	修正不能なエラー (UE) パニックの発生後、「 <code>cpumem-diagnosis</code> 」モジュールのロードが失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、このモジュールを使用する FMA によって通常は自動診断されるイベントが手動診断を要求します。 例： SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ffem7-d0	問題がすでに発生している場合は、次の回避方法に従います。 回避方法： 1. <code>cpumemdiagnosis</code> ファイルを削除してください。 <code># rm /var/fm/fmd/ckpt/ \cpumemdiagnosis/cpumem -diagnosis</code> 2. <code>fmd</code> サービスを再起動してください。 <code># svcadm restart fmd</code> この問題を事前に回避するには、「 <code>rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis</code> 」を <code>/lib/svc/method/svc-dumpadm</code> ファイルに、次のように追加してください。 <code># savedev=none rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis #</code>

表 3-7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6495303	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG-(X)PCIE2SCSIU320Z) を Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの IOU スロット 1 で使用すると、システムパニックが発生することがあります。	このカードを IOU スロット 1 で使用しないでください。
6498283	ドメインで psradm 操作の実行中に、DR コマンド deleteboard を使用すると、システムパニックが発生することがあります。	回避方法はありません。
6499304	予期しないメッセージがコンソールに表示され、修正可能なエラー (CE) が多数発生しても CPU はオフラインになりません。 例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007 PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0	XSCF の CPU ステータスを確認してください。
6502204	CPU UE パニックの発生後のブート時に、予期しないエラーメッセージがコンソールに表示されることがあります。 例: UNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1-16-d0	予期しないメッセージが表示された場合は、showdomainstatus(8) コマンドを使用して、XSCF のシステムステータスを確認してください。
6502750	増設または減設されたホットプラグの PCI カードが通知メッセージを出力しないことがあります。	回避方法はありません。
6508432	PCIe の偽の修正可能なエラーが FMA エラーログに多数記録されることがあります。	これらのエラーをマスクするには、次のエントリを /etc/system に追加し、システムをリブートしてください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001
6508434	PCI ホットプラグを使用して PCI-X カードを増設または交換すると、ドメインがパニックすることがあります。	PCI ホットプラグを使用して、異なるタイプの PCI-X カードを同じ PCI スロットに増設しないでください。
6510861	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG-(X)PCIE2SCSIU320Z) を使用しているとき、PCIe の修正可能なエラーによって Solaris のパニックが発生します。	この問題を回避するには、次のエントリを /etc/system に追加してください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1

表 3-7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6520990	ドメインがリブートしたとき、SCF が同じ物理ボードを共有している他のドメインにサービスを提供できないことがあります。DR 操作がデフォルトのタイムアウト時間を超え、パニックが発生する可能性があります。	次の記述を <code>/etc/system</code> に設定して DR タイムアウト時間を大きくし、システムをリブートします。 <pre>set drmach:fmem_timeout = 30</pre>
6527781	2 つのドメイン間で DVD/DAT ドライブを移動中に、 <code>cfgadm</code> コマンドが失敗します。	回避方法はありません。DVD/ テープドライブユニットを再構成するには、問題が発生しているドメインから <code>reboot -r</code> を実行してください。
6530178	DR <code>addboard</code> コマンドがハングすることがあります。問題が検出されると、それ以上の DR 操作はブロックされます。復旧にはドメインのリブートが必要です。	回避方法はありません。
6530288	<code>cfgadm(1M)</code> コマンドが <code>Ap_Id</code> フォーマットを正しく表示しないことがあります。	回避方法はありません。
6534471	通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。	カーネルの大きなページの TLB プログラミングを無効にしてください。 <code>/etc/system</code> ファイルで、 <code>heaplp_use_stlb</code> 変数を 0 に変更してください。 <pre>set heaplp_use_stlb=0</pre>
6535564	DR によって追加された XSB で、PCI スロット #0、#1、または PCI ボックスに対する PCI ホットプラグが失敗することがあります。	XSB の PCI カードを増設または減設する必要がある場合は、PCI ホットプラグの代わりに DR を使用してください。
6539084	ドメインに Sun Quad GbE UTP x8 PCIe (X4447A-Z) カードが存在する場合、リブート中にドメインのパニックがまれに発生することがあります。	
6539909	<code>boot net install</code> コマンドを使用して Solaris OS をインストールしているとき、ネットワークアクセスに次の I/O カードが使用されません。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP 	代替タイプのネットワークカードまたはオンボードのネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由で Solaris OS をインストールしてください。
6542632	ドライブ接続に失敗すると、PCIe モジュールにメモリリークが発生します。	回避方法はありません。

ドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントセットが出版された後に知られるようになった最新情報、またはごく最近に追加された最新情報を示します。

表 3-8 ドキュメントの変更予定

ドキュメント	変更対象	変更内容
『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』および XSCF のマニュアルページ	setdualpowerfeed(8)	XCP 1091 リリースで、DESCRIPTION に次の説明が追加されました。 M4000/M5000 サーバでは、100V 電源で二系統受電モードを使用することはできません。
	setupfru(8)	XCP 1091 リリースで、EXTENDED DESCRIPTION に次の説明が追加されました。 M8000/M9000 サーバでは、2 つの CPUM を搭載している CMU を Quad-XSB モードに設定できます。ただし、CPUM およびメモリが搭載されていない XSB については「configuration error」メッセージが生成されます。
	showdevices(8)	XCP 1091 リリースで、次の情報が追加されました。 DR 操作を実行し、次にドメイン電源サイクルを実行した後は、devfsadm -v コマンドを実行してから showdevices を実行する必要があります。このように実行しない場合は、showdevices の表示内容が不正確になります。
	showenvironment(8)	XCP 1091 リリースで、次の情報が追加されました。 power オペランドがサポートされるのは、M3000 サーバのみです。air オペランドがサポートされるのは、M3000/M8000/M9000 サーバのみです。

表 3-8 ドキュメントの変更予定 (続き)

ドキュメント	変更対象	変更内容
	setad(8) および setldapssl(8)	<p>setad(8) および setldapssl(8) のマニュアルページにある OPERANDS 項の userdomain の説明に、現時点で次の情報が追加されていません。</p> <p>ユーザードメインは、XSCF 上で setad userdomain コマンドを使用して明示的に設定することも、ログインプロンプトに user@domain 形式で入力することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • userdomain をログインプロンプトで次のように指定した場合 - login: ima.admin@dc01.example.com - このログイン試行で使用されます。事前に設定されたユーザードメイン (showad userdomain で表示されるもの) は無視されます。 • userdomain がログインプロンプトで指定されていない場合 (login: ima.admin など) - 事前に設定された各ユーザードメインを XSCF が確認し、ユーザーを認証します。
『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』	Active Directory および LDAP over SSL XSCF ユニット / ファームウェアのアップデート (8.1.10 項)	<p>『Active Directory および LDAP over SSL』(P.2) で説明したこれらの機能については、現時点で『XSCF ユーザーズガイド』に説明が追加されていません。</p> <p>次の情報は、現時点でドキュメントに追加されていません。次の項の手順 2 および 3 を置き換える必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「XSCF ユニットの交換したときに XSCF ファームウェアをアップデートする (XSCF ユニットが 1 つのシステムの場合または XSCF ユニットが二重化構成のシステムで両方を交換した場合)」 • 「マザーボードユニット (MBU) を交換したとき XCP ファームウェアをアップデートする (M3000 サーバの場合)」 <p>次の手順に置き換えます。</p> <p>2. 交換用のユニットと交換されるユニットのバージョンが異なる場合、メッセージが表示されます。この場合、ファームウェアは自動的にアップデートされません。オペレーターによるファームウェアバージョンの番号合わせが必要です。</p> <p>3. アップデートを行う場合、「外部媒体から XCP をアップデートする」または「ネットワークから XCP をアップデートする」の手順に従います。アップデートが完了した後、バージョン確認を行います。</p>

